

**テーマ：産学連携の食育授業を通じてのキャリア教育の可能性と課題
～高等学校の家庭科の授業での実践より～**

日時：2019年10月6日(日) 14:10～14:40 場所：札幌エルプラザ

特別会員の川口徳子が、発表を行いました。

<発表内容>

【研究目的】

- ①高等学校の家庭科の授業において産学連携で1年間を通じて、消費者市民としての行動や商品開発を学ぶ食育の授業を行う
- ②食に関心の高い対象に事業者の知識・経験を伝えて、食へのリテラシーを深めて、食や社会を学ぶ
- ③社会で生きる消費者教育を試み、毎回アンケートを実施して、基礎的・汎用的能力（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）からキャリア教育の可能性を探る



【研究方法】 授業内容（座学&グループワーク、調理実習）

- 1 学期 ①消費者の声を活かした企業の取り組み：消費者市民社会・消費者志向経営とは
②「調理済み加工食品」を使ってみよう：開封性・調理条件・品質チェック
- 2 学期 ①加工食品の使い方を学ぶ、アレンジメニューを考える：メニューの企画
②アレンジメニューを作ってみる
- 3 学期 ①商品開発について学ぼう：商品開発の理論を学ぶ、コンセプトシートを作成
②試作してみよう！評価してみよう！：コンセプト・パフォーマンスの評価

【結果】 アンケート結果を定量・定性（テキストマイニング）で分析して評価

- ①授業の評価 ②企業の取り組みへの興味・関心 ③調理済み加工食品を使っの意見 ④加工食品の使い方は勉強になったか
- ⑤アレンジメニューの企画 ⑥アレンジメニューを作ったの意見 ⑦商品開発を学んで、企画しての意見 ⑧試作・評価しての意見
- ⑨1年間の授業についての感想より評価 ⑩6回の授業後の感想より評価

【考察と今後の課題】

1) 基礎的・汎用的能力の醸成への可能性

- ①意見交換をして、他者の価値観や個性・ユニークさを理解し受け入れて、チームワークでの創造を体験した
- ②消費者としての役割を理解して、前向きに考えて主体的に行動する動機付けとなった
- ③情報への理解や課題発見からの計画立案・実行、評価を行うプロセスを通じ、職業・就労への理解・認識を深める一助となった
- ④学ぶ意義や価値観・職業観・勤労観を理解し、経験を通じての成長願望が見られた

2) 今後の課題： ① C/P バランス評価の活用とプレゼンテーション演習の導入 ② キャリア発達に方向性の明確化